

# JA ふうおかやめの概況と取組

福岡八女農業協同組合 代表理事副組合長  
末崎照男

## 1 概況

### ○ 地域概況

日本国の九州・・・・・・・・一番北に位置している。

### ○ JA の概況

#### ① 設立経緯

平成8年(1996年)4月1日、2市4町2村の8JAが合併し福岡八女農業協同組合として発足する。

- ・ 基本理念・・・・・・・・「自己完結型JAをめざす」

※ JA 系統組織 (JA—県連—全国連) を否定するのではなく、我々でできるものについては、我々で行うことである。

#### ② 事業概況

- ・ 農産物取扱高 約260億円
- ・ 経済事業取扱高(資材・肥料・農薬)約180億円
- ・ 貯金残高 約2012億円
- ・ 財務 総資産 約2280億円  
出資金 約39億円

#### ③ 組織概況

- ・ 組合員数(正・準組合員)25882名
- ・ JA 役員数 44名
- ・ JA 職員数 1,289名

#### ④ 農産物

(純農村地帯でもあり、年間色々な農産物販売されている。)

- ・ 主要農産物:イチゴ、花、茶、みかん、キウイ、ブドウ、なす、トマト、米等
- ・ 農産物販売高が10億円以上のもの:9品目

## 2 JA ふうおかやめの生産・販売戦略

### 1) 生産面においては

- ① 生産部会(グループ)の育成
- ② 法人の育成

### ③ 施設園芸の取り組み

#### 2) 販売面においては

##### ① 東京事務所の開設（1996年8月8日）

目的：営業活動の強化

：大消費地の情報、ニーズの収集

消費地の情報やニーズを的確に把握し、いち早く産地（JA全体）へ知らせる。産地（JA）では、消費地ニーズに合わせたものを生産し、販売体制の構築を図る。

#### 3) 販売先については

##### ① 市場販売

基本的にはセリであるが、ほとんどが契約取引を実施している。（1週間、10日間等の数量・値決め）

##### ② 直販事業

生協・量販店等に直接販売をする。

##### ③ 一部海外輸出

香港・台湾・カナダ等へ

### 3 力を入れている取り組み

#### 1) 環境センターの活用

① 土壌分析および残留農薬の分析をおこない、消費者に安心・安全・新鮮を提供する。

② 安心とは誰が、どこで、どういう形で生産しているのか、トレースができるようにしている。

※ 安全な農産物は無肥料・無農薬といわれるけれども、肥料の施肥・農薬使用しなければ良質の商品はできず生産性は上がらない。その為には土壌分析を実施し適量の施肥と登録されている農薬の基準使用（適正使用）が必要である。

#### 2) パッケージセンターの活用

パッケージセンターは2か所設けており、1か所に100～150名で稼働している。

##### ア 生産面においては

##### ① 労働力の軽減（生産者）

特にイチゴ等は、生産からパック詰めに労力が必要であり、パック詰めをパッケージセンターが担当する。

② 生産者の突発的な出来事（病気・事故）の対応

③ 地域労働力の雇用対策

##### イ 販売面においては

・ 消費者、消費地の要望に応えた商品作り。

例えば、年末やクリスマス等でイチゴを食べたい時に、1パック1000円～1500円する。

これを 500 円で食べたい一時に 500 円の商品づくりをする。

### **3) その他**

生産された新鮮なものを早く消費者に届ける等。

例えば、早採りのブドウを宅配便と連携して夕方に消費者に届ける等。

## **4 まとめ**

以上のような取組を通じて、八女地域の農業の維持・発展と農家所得の向上に努めている。